

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400538		
法人名	(株) イクロス		
事業所名	グループホーム パル白浜		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2927-80		
自己評価作成日	平成25年9月6日	評価結果市町村受理日	平成25年10月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの個性を理解し、その方が楽しく過ごして頂けるよう1日1日を大切にされた支援を行なえるよう職員が一丸となり努力している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=3072400538-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=3072400538-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年10月18日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは開設より10年目を迎え、より一層地域に開かれたホームを目指しています。また法人内に地域密着型サービスの事業所を新たに開設し、共に地域に根ざした事業所となるよう日々研鑽しています。職員同士の交流や研修で資質の向上を図ったり、当ホームも床や壁を明るく清潔で居心地良く暮らせる環境に改善しています。理念に「お一人お一人の満足と皆様の笑顔を目標に思いやりのある介護をいたします。」と掲げ、職員は利用者の満足と笑顔を引き出せるよう日々のケアに取り組んでいます。家族へ参加を呼びかけ、1泊旅行を実現し家族や利用者の多くの笑顔につながっています。重度化する中でも利用者の笑顔が見れるよう、さらに外出の機会やイベントを増やす取り組みを試み、利用者の満足が得られるよう努力しているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所の理念を共有し、利用者が地域の一人として、生活できるように努めている	利用者が満足して笑顔で暮らせるようにとの思いを込め、ホーム独自の理念を掲げています。職員は日々、一人ひとりに寄り添った関わりをする中で、楽しい場面を作り、地域に出かけた時も「ありがとう」や笑顔を引き出せるように努め、笑顔で暮らしているか日々のケアの中で振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	機会があれば、町内会の催しや小学校の行事に参加し、利用者が地域と交流できるようにしている	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得ています。町内会の夏祭りに参加したり、秋祭りや花見等行事の連絡を受け、参加できない時は挨拶に行っています。他施設との交流や小学校の運動会にも参加し、踊りや大正琴等のボランティアも訪れています。近所の方とも顔見知り散歩時に花をいただくこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域とのつながりを大切にし、そこから理解して頂けるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常の様子や、サービスの現状を報告し、話し合った事や意見を下さった事は、サービスの向上に活かせるようにしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、住民代表、家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。毎回議題を決め、電話で全家族に参加を呼びかけています。行事や現状報告を行い、運営に関する内容の変更があれば説明し、質疑応答や意見交換をしています。欠席の家族には議事録を送付し内容を伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を取り、信頼関係を築けるようにしている	書類は直接出向いて町の担当者に届けたり、出かけた際に分からない事やホームの実情も伝え、密に相談し合える相互の協力関係が築かれています。町から研修案内があれば参加するように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、社内・外の研修に参加し、身体拘束に関する知識を深め、話し合いを持ち、情報を共有しケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルを用いて新人研修を行い、社内研修は地域包括支援センターから講師を招き、言葉による拘束も含め身体拘束をしないケアを周知しています。玄関やエレベーターも施錠せず自由に出入りできます。外に行きたい様子が見られたら、付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、社内・外の研修に参加し、高齢者虐待防止関連法について学び、虐待が見過ごされることがないように注意しケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して、権利擁護に関する理解を深め、利用者の必要性に応じて地域包括センターや社会福祉協議会等と連携を取り、活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約の前の段階で、不安や疑問点などに十分な説明を行い、納得して頂いてから契約させて頂き、改定等に対しても十分な話し合いを持ち、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等で意見や要望を表わせる機会を設けたり、定期的な介護相談員の訪問を受け、外部者に表わせる機会を設けている	面会時や電話で状況や様子を伝えながら要望や意見を聞いています。また運営推進会議や家族会、介護相談員を受け入れ意見や要望が出せる機会があります。床の絨毯について意見が出され、床を絨毯からフローリングに変更し明るく清潔に過ごせるように改善する等、出された意見や要望は運営に活かせるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員の意見や提案を聞き入れ、話し合い運営に反映できるようにしている	社内研修や全体会議、日々のミーティングの中で職員の意見や要望を聞いています。管理者は休憩時間にコミュニケーションをとる機会を見つけ、話しやすい雰囲気づくりに努めています。職員は、ケア上の細かいことや気づいた事を提案し、皆で検討しケアに活かしています。物品購入や分からないことは、上司に伝え検討してもらいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等も設け、資格取得などの個々のスキルアップの為に協力し、向上心を持ち働き続けられる職場となるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々のレベルに合った外部研修に参加する機会を設け、社内研修の参加も義務付け、職員のスキルアップにつながるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して交流する機会を作ったり、各種実習生の受け入れの場を提供する事で交流する機会を作っている。そこで得た情報・意見など、サービスの質を向上させるために取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、すでに本人からの明確な要望を聞ける状態でない場合が多い為、家族からの要望等を聞き、周りからの情報収集を十分に行い、本人の安心を考えた関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の安心を考えた上で、家族等の不安や要望等に耳を傾け、家族にも安心して頂けるような信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報収集を行い、本人の状態を見極め、本人や家族が一番必要としている支援が行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態に合わせた対応を行い、本人本位の生活を送って頂き、共に生活していると感じて頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも事情があり難しい場合もあるが、本人との絆を大切に、途切れかけた絆は修復できるように支援し、共に本人を支えていけるような関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築きあげた馴染みの人や場所を大切に、これらとの関係が途切れないよう支援し続けるよう努めている	行きつけの美容室やスーパーに出かけています。慣れ親しんだ自宅周辺や駅を見にドライブしたり、町内の足湯めぐりをしています。家族と一緒に自宅の仏壇にお参りに出かける方が居たり、近所の方から様子伺いの電話がある時は最近の様子を伝えています。昔の知人や親戚が訪れた時はお茶を出し、居室でゆっくり過ごしてもらい、これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や個性、感情の変化を把握したうえで、利用者同士が関わり支え合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなりサービス終了となる場合が多く、その後関係も自然と薄れてしまう。お見送りに参列させて頂いた後は、偶然出会う程度となっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の場を多く設けるようにし、一人ひとりの思いや希望が理解できるよう努め、可能な限り本人本位の暮らしができるよう努めている	入居時に本人や家族から聞き取った生活歴や趣味、意向等をアセスメント用紙に記入し、その後得た情報は追記し思いを把握しています。入居後は、日々の関わりの中で利用者が発した言葉や表情、しぐさ、行動等を記録し、職員間で共有しています。困難な時は、表情やその時の様子から思いを汲み取り、本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人からの情報収集を行うようにし、家族・ケアマネージャーや関係者からの情報収集から本人のことを把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から、一日の過ごし方、心身状態、有する能力の変化に注意し、現状の把握に努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、本人本位の暮らしができるよう現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや本人、家族の思いを基に、各職員に意見を聞いて介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを行い、更新毎に再アセスメントし見直しています。状況に変化があればその都度見直し、医師や看護師の意見を反映させた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別記録の記入を行い、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かし、実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる利用者のニーズに対応できる支援を行い、職員の増員等の柔軟な対応も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時折、ボランティアに訪問して頂き、いつもと違う雰囲気を感じてもらったり、個々の能力に合わせた避難方法や経路を知ることによって安心した暮らしができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望を大切に、できる限り家族の協力を得ながら、適切な医療が受けられるように支援している	かかりつけ医を継続できることや提携医について説明し、選んでもらっています。ほとんどの方のかかりつけ医が提携医になっており、職員が月1回受診に付き添います。専門医の受診は家族が対応し、情報交換ができるようにしています。訪問看護師が週1回健康管理を行い、提携医と連携を図り、24時間の医療体制を整えています。歯科受診の必要な方には、職員が受診の支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中での利用者の心身の状態や気づきを訪問看護師に伝え、助言または医師との連携で適切な受診や看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療できるように訪問看護師と連絡を密に取り、利用者の定期受診の際には、医師との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と終末期のあり方は話し合っていないが、家族とは入所時より事業所の方向性を説明し、重度化等で必要となった時には、家族・医師、必要な方々と十分話し合いを行えるよう取り組んでいる	入居時に看取りについてホームで出来ることと出来ないことを説明し、家族に看取りをする方針があると伝えています。ターミナル期の状態について医師と家族、職員も含めその都度話し合い、家族の意向を確認しています。看取りの経験もあり、経験したことを今後のケアに活かし、職員の理解と意欲を深めるための勉強会も考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低でも年一回の訓練と緊急時の対応に関する研修を行い実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を行い利用者と共に参加し、個々の力に応じた避難方法や経路を確認している。白浜消防署や自治会にも協力をお願いし、家族との協力体制も築いている	年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署の立ち会いの下、昼夜を想定して利用者と一緒に初期消火、通報、避難場所の確認等の訓練しています。自主訓練は事業者による消防設備の点検と正常に作動するか等を行い、利用者の状況に合わせた避難方法を確認しています。防災協定が交わされ災害時の避難場所があり、地域との協力体制が築けるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や力に応じ声掛けや対応を行っている、尊厳を保ちプライバシーを損ねるような対応にならないように注意している	新人採用時や社内研修の中で尊厳についての説明をしています。排泄時には耳元で声かけを行い、さりげないトイレ誘導を心がけています。居室へはノックして声をかけ、居室に居ない時は了解を得てから入室しています。基本名前は姓で呼び、昔の呼び名で呼ぶ時は家族の了解を得、人格を尊重し馴れ馴れしくならないように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定して頂けるような対応を心がけ、思いや希望を表わせない利用者には表情や仕草から思いをくみとるよう努力しできる限り自己決定に近い支援になるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決め事や都合を優先する時もあるが、できる限り本人のペースに合わせた一日を過ごすことができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みでその日の洋服等を選んで頂きおしゃれを楽しめるよう支援している 表わせない利用者にはその人に似合うようなものを選ぶように配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの物を献立に入れたり、利用者の力に応じた準備や片付けを行って頂き、又職員と一緒にできるよう支援している	献立は利用者の希望を聞いて決め、買物と一緒にに行っています。利用者は、下ごしらえや盛り付け、下膳等の出来ることを職員と一緒にしています。職員は利用者の側で同じものを食べ、食事の団欒を楽しんでもらっています。一人ひとりの誕生日に合わせてその方の好きなメニューを聞いて作ったり、外食に出かけることもあります。外食に行く時はトロミやきざみ食の方への配慮をし、食事が楽しめるように心がけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作り、個々に食事量や水分量を記録し、不足している時には好みの物で補うようにしている又その人の体調に合わせて食事の形態やメニューを変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの能力に合わせた口腔ケアの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄が行えるよう一人ひとりの力や排泄パターンに応じた声掛けを行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるよう支援しています。早い目のトイレ誘導をすることで失敗が少なくなり、紙パンツから布の下着に変更し、自力で着脱の更衣もできるようになった方もおられます。生活の自信に繋げ排泄の自立に向けてのケアに取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維の多い食材を取り入れた献立を作り、体調に合わせた軽い運動を取り入れたり、水分摂取に気を配り、慢性的な便秘の方には、医師が処方した便秘薬にて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉を引いた大浴場は入浴の曜日や時間帯が決まっているが、決められた中で個々の希望やタイミングに合わせた支援を行っている	入浴は週3回の曜日を決め、14時～16時の間に入ってもらっています。温泉の沸いた大浴場があり、重度化しても湯船にゆったりと浸かってもらっています。希望があれば随時対応可能です。拒否される場合は、タイミングを見て声をかけを工夫しながら入浴してもらっています。温泉の湯がいつでも楽しめ、更に柚子や菖蒲等を入れ季節湯を楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースのソファなどで自由に過ごして頂き、夜間は個々の居室で休んで頂く、その際は室温や入眠状態に気を配り安心して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用している薬について、ほぼ理解しており、利用者の力に合わせた服薬支援を行い、症状の変化に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の流れの中でその人に合った役割を担って頂き、張り合いや喜びを感じるよう支援している 又、季節に合った行事を取り入れ楽しみごとが増えるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望にできる限り添って外出できるよう支援している身体機能の低下に伴い外出を好まない利用者も多くなっているが車イスを利用するなど負担がかからないよう支援している	日常的に車椅子の利用者も偏ることなく近所を散歩したり、個々の希望でスーパーに買い物に行っています。足湯めぐりやドライブを兼ねて季節の花見や紅葉を見に遠方まで出かけたり、ホームの前の玄関や広い駐車場へ行き、気分転換を図っています。今回、家族にも声をかけ、近くの温泉に泊旅行が実現するなど、外出の支援に努めています。	

グループホーム パル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が多くほとんど所持されていないが、個々に合わせて買い物の際支払いをして頂いたりしている 家族と相談の上で紛失しても差し障りの無い程度の金額を所持して頂いている方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら、電話をかけたり、手紙を書こうとされることがあまり見受けられないが手紙を受け取った時は喜んでおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上防ぐことのできない点もあるが、利用者の不快感が軽減できるように努めている 旬の食材をメニューに取り入れれたり、季節に合ったイベントや飾りなどで感じて頂けるようにしている	リビングは吹き抜けで明るく、景色が眺められ季節を感じられます。フロアーは、一人ひとりが寛げるようテレビやソファ、椅子、テーブル等の配置を工夫しています。食事を作る音や匂いが漂う中で新聞を読み、会話を楽しむ家庭的な雰囲気があります。温度や湿度にも気を配り空気の入換えを行い、清潔な環境になるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間やローカにソファを置き自由に使用して頂ける場所を設けている テーブル席では、身体的なことや気の合うもの同士で過ごせ居心地がよくなるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者の住み慣れた形に近づけるようにし、使い慣れた馴染みのものを置いて頂いたり、利用者の方が居心地よく過ごしていただけるよう工夫している	居室はタンスのみ備え付けです。持ち込まれたテレビやベット、ソファ、テーブル等は家族と相談しながら配置を工夫しています。自宅と同じように畳を敷いたり、使い慣れた掃除機や座布団等を置き、持ち込みのタンスは地震対策のため固定する等、今までの生活が継続でき安全で落ち着いた生活ができるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人ひとりのできることを理解し、その人の力に応じた行動ができるように工夫し、安全に過ごせるように努力している		